

住宅の変化

今の日本の住宅では、多くの家で子どもたちが親たちとは別の独立した部屋をもつようになりました。個人のプライバシーを守り、自由な空間を確保できるという意味では欧米に近づいたといえます。

しかし、昔のように家族がいっしょに食事をしたり、居間に集まって団らんしたりすることが少なくなっています。子ども専用の部屋が、家族と顔をあわせる時間を少なくし、子どもを孤独にしてしまう、家族との関係がうまくいかないときに部屋に閉じこもってしまうなどの問題がおきてきました。

便利さと個人の生活を尊重しながら、家族とのコミュニケーションをとりもどしていくにはどうすればよいかが、住まいをめぐる 21 世紀の課題となっています。

(青木滋一『日本人』を知る本——人・心・衣・食・住 [5] 日本人の住まい』岩崎書店より)

地図を見れば

世界地図を広げてみると、世の中には実にさまざまな国があることがわかります。

ヨーロッパのページを開いてみてください。ヨーロッパの北にはスカンジナビア半島^{はんとう}と
いうかなり大きな半島があり、その半島のほぼ東側半分にスウェーデンという国がありま
す。

わたしが翻訳をしているのは、おもにこのスウェーデン語の絵本^{えほん}や児童文学^{じどう}です。つま
り、スウェーデン語で書かれている文章^{ぶんしょう}を日本語にするのが、私の仕事です。

「へえ、(A)」という声が聞こえてきそうですが、本当^{ほんとう}にあるんですね、スウェー
デン語という言葉^{ことば}が。それから、お隣のノルウェーにはノルウェー語が、デンマークには
デンマーク語があり、この三つはとてよく似^にていて、三兄弟のような関係^{かんけい}にあるといえ
ます。

言葉以外にもスウェーデン、ノルウェー、デンマークは、歴史^{れきし}や文化^{ぶんか}の面^{めん}でよく似てい
る部分^{ぶぶん}がたくさんあります。それで、三つの国をひとまとめにして「北欧三カ国」と呼ん
だりもします。

(ひしきあきらこ「スウェーデンの子どもの本を訳す」『世界がステージ!』岩波ジュニア新書より)